

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 輝翔館 中等教育学校



<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>地域への理解を深めながら、幅広い年齢層と共に学ぶことにより、多様性を認め合い、地域や社会に貢献できる人材を育成する学校 ～自然豊かな学習環境の中で、体験的学習と探究学習を基盤とする6年間を見据えた教育活動を行い、生徒一人一人の能力を最大限に引き出し、主体的に社会に貢献できる有為な人材を育成します。～</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性や可能性を大切に、未来を切り拓く強い信念を持った人材の育成 次代を担うリーダーに求められる社会貢献への強い意志と実践力を持った人材の育成 自然豊かな環境の中で自己研鑽を積み、郷土愛とグローバルな視野を持ち合わせた人材の育成
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育システムを活用した基礎学力の定着と先取り学習を行い、6年間を見通したカリキュラムの設定 中高との連携や継続性を活かした、自らの生き方(進路)について考えるキャリア教育の推進 全教室設置のICT機器、一人一台タブレット端末等を駆使し、生徒が主体的・協働的に考え、思考力・判断力・表現力を育成する授業の展開 総合英会話、英語スピーチコンテスト、グローバルデー等、異文化交流体験の機会の積極的な設定
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 何事にも臆せずに行動できるチャレンジ精神旺盛な人 人間関係形成能力が身についている人 夢や目標を持ち、確かな学力をつけている人

学校運営計画(4月)			
学校運営方針	Update輝翔館Ⅱ～次代を担うグローバルリーダーの育成		評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>中等教育学校の特性を生かした豊かな多様性と少人数教育により、生徒も職員も学校もアップデートする取り組みができた。 課題は、本校教育の魅力や特色を更に強め、PRを強化し、志願者数を増やし、後期課程進級辞退者を減らすことである。</p>	<p>思考力・判断力・表現力の強化、主体的・対話的で深い学びを実現する</p>	<p>ICT機器を駆使した授業により、生徒同士の学び合いを推奨し、生徒の「表現力やプレゼンテーション能力」を高めるための「工夫した授業」の充実を図る</p>	<p>A</p>
	<p>発達段階に応じた効果的な指導方法を実践する</p>	<p>各学年の到達目標や指導方法に工夫を加え、「規範意識」に富み、「チャレンジ精神」にあふれた活気ある生徒を育成する</p>	
	<p>特別な教育的支援を必要とする生徒への配慮と指導体制を整備する</p>	<p>教育的ニーズに応じた個別の指導を行い、様々な背景を持つ生徒に対応すべく、外部の関係機関とも連携し校内の支援体制を整える</p>	
	<p>前期課程生徒と後期課程生徒の交流により自己教育力を高める</p>	<p>学校行事や日頃の学校生活における異年齢交流により、思いやる心と生徒が自ら成長する力を育て、「笑顔で活力ある生活」を送らせる</p>	
	<p>生徒の自主的活動の活性化を図る</p>	<p>「生徒会活動の活性化」「知的チャレンジ活動」「ボランティア活動」等を推進することで、生徒の社会性を育成し、自己有用感を高める</p>	
	<p>志願者の増加と地域社会との連携強化を図る</p>	<p>広報内容を見直すと同時に、地域行事等への積極的な参加を通じた連携をすすめ本校のPRを強化する</p>	

自己評価							学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(A~D)			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
総務部	令和8年度入学者選抜志願倍率1.25倍(志願者150名)の達成	生徒が活躍する説明会を企画運営し、本校の魅力をアピールする。 小学校、塾に対して定期的な訪問、広報物の送付を行う。 全校生徒から説明会への参加を募り、積極的な広報活動を行う。	学校説明会参加者へのアンケート、説明会を主催者として参加した生徒へのアンケート	A	A	A	本年度より生徒広報組織「輝翔館ナビゲーターズ」を発足し、SMSへの配信や説明会での企画、パンフレットへのモデル参加など、多岐にわたり活躍をしてくれた。しかし、目標の1.25倍には程遠かった。広報は引き続きいい、違う視点から学校がよりよくなる方法を考えていきたい。	A	・志願者数等結果が出ていない点は改善できる点があると思う	
	儀式的行事の円滑、丁寧な運営	行事を企画立案し、反省評価を確実に次年度に引き継ぐ。 管理職、関係部署との打ち合わせ、連絡調整を密に行う。 表彰式、受賞報告、生徒発表を定期的に行う。	PTA役員の方々にアンケートを実施。文化祭について来年度以降への期待の声を多くいただいた。	A			B		A	・とても素晴らしい卒業式だった
教務部	基礎・基本を定着させる学習指導と学力の向上	生徒の学習状況を把握し、個に応じた指導を充実させる。 学力向上のための更なる授業・指導法の改善を図る。 観点別評価に基づいた的確な評価方法を研究する。	・授業アンケート(授業で「分かった」「できた」と感じる事ができているかの評価が5段階中平均4.3)	A	A	A	授業で「分かった」、「できた」と感じている生徒は多い。課題として、授業では分かったつもりでも、定期考査等での結果が振るわない生徒も多い。スタディサプリや課題等を通して、学習習慣の定着を図る必要がある。	A	・生徒同士で教え合うことは協働的な学びでとても良い	
	ICT機器の活用や生徒同士の学び合いを推奨し、学習意欲の向上を図る	ICT機器を活用した授業を推進する。 定期考査の採点業務と生徒の実態把握作業の効率化を図る。 輝翔館チューターの取組を実施し、生徒同士の学び合いを推進する。	・授業アンケート(多くの先生方が積極的にICT機器を活用している) ・デジタル採点システム利用者数(約40%の先生方が利用) ・輝翔館チューター実施後アンケート(約90%の生徒が満足していると回答)	B			A		A	デジタル採点システムを活用している先生方が増加しており、活用状況は良好である。また、輝翔館チューターの満足度が高く、学び合いも定着してきている。課題として、デジタル採点システムの有用性を広め、個に応じた指導に活用していただける機会を増やしたい。また、学校行事に応じて輝翔館チューターの開催時期の見直しを図りたい。
	希望進路実現へ向けての積極的な取り組み	進路行事の内容や実施時期を見直す。 大学入試説明会等に積極的な参加を促す。 ポータルサイトを活用した入試情報発信を推進する。	・説明会等の職員参加人数(Plant58人、予備校等3人) ・情報発信(ポータルサイト15回や印刷物16回)	A			A		A	・職員研修や説明会等への参加は概ね良好であった。 ・ポータルサイトや印刷物を活用した情報発信の量と質を毎回考慮する。
生徒部	職員研修の確実な運営と生徒のキャリア教育の推進	研修の確実な実施と内容の充実を図る。 生徒の知的チャレンジ活動への参加を推進する。 人権教育を推進する。	・職員全体研修(参加率95%) ・知的チャレンジ活動生徒参加人数(15人) ・人権教育(生徒授業 2回、職員研修参加率100%)	A	A	A	・知的チャレンジ活動の生徒参加がやや少ない。次年度は活性化をするように計画する。 ・人権教育は例年通りに実施でき参加率も良好であった。	A	・文化祭に参加したが、とても素晴らしいが、生徒の自主的な活動と頑張りが増えた。	
	望ましい規範意識の育成	挨拶及び清掃の励行・正しい言動・校則を遵守する心を涵養する。 外部講師を招いての講演会を開催する。 学校行事等を通じた生徒集団の自己教育力の育成を図る。	学校生活アンケート いじめアンケート 家庭生活チェックリスト	A			A		A	・学校行事及び講演会については、滞りなく実施できた。特に、今年度初開催の文化祭については、生徒会担当の先生方と生徒会執行部の頑張り及各先生方のご協力のもとで、成功させることができた。
第1学年	生徒の自主的かつ自治的活動の活性化	生徒会執行部や各種委員会活動等の自主的・自治的意識を醸成する。 掲示板や生徒会通信等を利用した活動状況の周知を図る。 生徒会と連携し、行事・校則等を継続的に見直し、改善を図る。	・大きな問題もなく、比較的好意的な回答が多かった。また、いじめの重大事態につながるような事案もなかった。	A	A	A	・教員と生徒会執行部が協力して、よりよく過ごすことができる学校づくりを進めていくことができると思っている。来年度以降も改善すべきところは改善し、守らせるところはしっかりと守らせることができるように積極的に取り組んでいく。	A	・ネットリテラシー教育の充実をしてほしい	
	基本的な生活習慣と規範意識を定着させ、良好な人間関係の育成を図り、明るく安心した学校生活の場を作る	生徒の心に響く関わりを通じて礼儀作法やマナーを身につけさせる。 輝翔館の伝統行事を通して、自己の役割を全うさせる。 学年職員、家庭、関係機関が情報共有を密に行い、個々の悩みの解決を迅速に行う。	・学校生活アンケート ・チャレンジノートの記述 ・三者面談	A			A		A	チャレンジノートや日々の声掛けを通して、生徒の困りごとや悩みに対し、迅速に対応することができた。次年度以降に向けては規範意識の向上、主体的な学校行事への参加が課題となる。
第2学年	授業規律の確立と、家庭学習の習慣の定着を図り、確かな学力を育成する	授業規律を徹底し、落ち着いて学習に取り組める環境を整える。 チャレンジノートを活用し、自主的な家庭学習の充実を図る。 復習のためにスタディサプリを効果的に活用させ、基礎学力定着を図る。	・学校生活アンケート ・チャレンジノートの記述 ・三者面談	A	A	A	1期は授業中のメリハリがつかない場面も散見されたが、最近では集中して授業を受けることができている。家庭学習の習慣化を徹底させる必要がある。	A	学習面では落ち着いた授業態度が多く見られる。しかし、学習習慣が定着していないため、教科間でバランスを考え、継続的に課題に取り組ませる必要がある。	
	基本的な生活・学習習慣の確立と確かな学力の定着を図る。	学校生活を通して、多様な価値観を受け入れる心を育て、良好な人間関係の育成を図る。 落ち着いて学習に取り組めるよう、授業規律を徹底し、基礎的な知識の定着を図る。 スタディサプリを活用し、自主的・自発的な家庭学習の充実を図る。	・学校生活アンケート ・スタディサプリと感想文 ・三者面談	A			A		A	学校行事に対して積極的に参加し、クラス・学年が協力する姿勢が見られた。前期運動会に対しては、3年生と協力しながら現在進めている状況である。
第3学年	前期課程最上学年として、学習面や行動面など後輩の模範となる学校生活態度を確立させる	スタディサプリを活用し、主体的な学習活動を図る。 元気な挨拶や徹底した清掃を率先しておこない、前期の雰囲気づくりを主導する。 各行事において一人一人が役割を全うし学校全体を盛り上げる。	・学校生活アンケート ・スタディサプリと感想文 ・三者面談	B	A	A	学習面においては自宅学習時間が足りず、スマホにかける時間が増幅したように思える。今後後期生に上がるにあたって家庭学習の重要性を考えさせる必要がある。挨拶や掃除については後半にかけて意識が高くなったようにうかがえた。	A	・中高の垣根を越えた学びを期待したい	
	何事にも挑戦する心を持ち、授業規律の継続と、学習習慣のさらなる定着に努め、将来のビジョンを育成する	授業規律の徹底を図り、各模試における標準得点を県平均以上に維持する。 CTなどの時間を活用し、英検・漢検をはじめとする資格取得のための学習時間を確保する。 進路学習を通して具体的な将来設計についてイメージさせ、後期生に向けたビジョンにつなげる。	・学校生活アンケート ・スタディサプリと感想文 ・三者面談 ・二者面談	B			A		A	各模試において平均以上をたたき出すことはできなかったため今後基礎的な学習を徹底させる必要があると考える。後期生に向けて本格的な進路へのビジョンを持たせるよういく。
第4学年	後期課程最初の学年として、高校生活のスタートダッシュを意識した学習習慣や生活習慣の確立。	予習・授業・復習の黄金サイクルを意識させ、つむつむノートを活用し、家庭学習の習慣化を徹底する。 日々の授業に積極的に取り組ませ、基礎・基本事項の取得徹底を図る。 時間厳守・言葉遣い・TPOに即したマナーを常に意識させる。また、環境美化への意識を高めさせる。	・生徒用学校生活アンケート ・行事後の感想文やキャリアパスポートへの記載内容 ・三者面談での保護者からの意見	A	A	A	・つむつむノートをとおとして、国語・数学・英語の3教科を日々復習をさせ、その継続的な取り組みにより、校外模試の全国平均偏差値は少しばかり上昇できた。 ・校則違反の生徒が増え始めたため、継続的な生徒指導をおこなう。	A	・早くから大学を意識させていて良い ・九大連携をさらに期待したい	
	進路意識の向上と上級学校への進学に対する知識を習得し、進路目標の具体化を図る。	個人面談を実施し、進路目標を持たせて、自己の将来像を意識した文理選択ができるように指導する。 進路実現に必要な知識を習得させ、オープンキャンパスへの参加をうながし、具体的な未来像を意図させる。 進路選択の幅を広げるために、多くの資格・検定を主体的に取得できるように取り組ませる。	・生徒用学校生活アンケート ・行事後の感想文やキャリアパスポートへの記載内容 ・三者面談での保護者からの意見	A			A		A	・夏休みの期間中にオープンキャンパスに参加させた が、全員参加させることはできなかった。 ・大学職員を本校に招き、第3・4学年合同で大学進路説明会を実施できたことは、生徒の進路意識の向上に大きく貢献できた。
				B			A		A	

第5学年	後期中堅学年として、所属の責任とリーダーとしての生活習慣や学習習慣を確立する力の育成を図る	時間厳守・言葉遣いのマナーを常に意識させる。また、環境美化への意識を高めさせる。	・学校生活アンケート ・学習時間調査 ・二者面談	A	A	A	・美化環境については日常的に整理整頓について指導を行った。課題提出については、三者面談時に保護者を交えて確認したり、に者面談で個別指導を行った改善がみられた。	A	・勉強合宿を是非実施してほしい
		学習習慣の確立するため家庭学習時間や提出物の状況の把握し、個別面談を実施する。		B					
		HRや学年集会等で学年の課題や社会情勢の話を適宜行い社会性を育成する。		A					
第6学年	将来を見据えた進路意識の向上と進路目標の具体化を図る	スタディーサプリを利用した個人面談を実施し、進路目標を具体的にした学習習慣を確率できるように指導する。	・学校生活アンケート ・行事後のアンケート記載内容 ・三者面談での保護者からの意見	A	A	A	・進路目標が明確になってきており、自らの課題認識が向上している生徒が増えた。その結果、資格取得や必要な学習課題をスタディーサプリを利用して実施する生徒が多くみられた。	A	
		オープンキャンパスやボランティア活動への参加をうながし、具体的な未来像を意識させる。		B					
		進路選択の幅を広げるために、多くの資格を主体的に取得できるように取り組ませる。		A					
第6学年	6年間の集大成として基本的な生活習慣を確立させ、社会に貢献できる人材の育成を図る。	時間厳守・挨拶・身だしなみを常に意識させる。また、健康管理への意識を高めさせる。	・学校生活アンケート ・学習時間調査 ・外部模試の結果	B	A	A	・挨拶や身だしなみについての指導を行った。行事等では責任感や自覚をもって行動できており、概ね良好であった。	A	
		行事等でリーダーとしての自覚と責任感を養う。下級生の模範となる振る舞いや言動を意識させる。		A					
		学校内外の活動を通して、他者との関わりを大切にさせ、社会に貢献できる人材を育成する。		A					
第6学年	第一希望の進路実現に向けて、進路意識の向上と学力向上を図る。	進路行事の計画的な運営を通して、生徒が自己理解を深め、主体的に進路を探索できるようにする。	・学校生活アンケート ・行事後のアンケート記載内容 ・三者面談での保護者からの意見	A	A	A	・進路関係では大きなミスもなく、無事に進めることができてきている。 ・進路実現に向けて、意識を高くもって取り組んでいる生徒が多く見られた。。	A	
		平日150分、休日360分の学習時間を達成させることで学力の向上に繋げる。		B					
		生徒の希望進路や学力について学年・教科担当・部活動顧問等と情報を共有する。		A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<p>・学校の魅力を伝えるべく、広報活動のさらなる充実、地域・関係機関との連携強化を、生徒保護者と共にさらに推進する。</p> <p>・先取学習「輝翔館アクセル」、知的チャレンジ活動等、特色ある教育活動を推進し、地理的不利な状況を払しょくできるように努める。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	